

令和2年6月1日

JARL社員の皆様へ

JARL 会員有志

JH1CVO 柴田祥一 JI1XKH 増田浩

JI1RKA 板橋直樹 JL1HHN 安田晃央(現社員)

7K1BIB 山内貴博 JF2PEO 森川智紀

JH2DFJ 岩田泰典(現社員)

JJ2JIX 後藤直(現社員)

JL2GBG 室井光(現社員)

JN2OFP 山田剛士(現社員)

JO2MLC 村井千鶴(現社員)

JA3HBF田原廣(現社員) JO3NEA 辻 孔明

JJ4QKY 河村博(現社員) JR4CQW 小西和男

JR6IKD 中嶋邦浩(現社員) JK7LXU 石岡洋一

JE8KQR 大國秀夫(現社員)

#### 第9回社員総会 決算・理事選任否決のお願い(情報提供)

拝啓 初夏の候、社員の皆様におかれましてはますますご健勝のほどとお慶び申し上げます。

さて このたび 第9回定時社員総会が、予定どおり開催されることとなりましたが、事務局から新型コロナウイルス感染防止のために以下の案内が届いたことと思いません。

『極力“書面により事前の議決権行使をいただき”社員総会当日のご出席をお控えいただくよう強くお願いする』

新型コロナウイルス感染防止は生命にかかわる大事である事は分かりますが社員の皆さん、「全議案賛成の議決権行使書」または「議長に一任する白紙委任状」を出されるのでしょうか？

社員皆様のご理解と正義感に期待し、提出前に、ちょっと考えていただきたいのです。

私共 JARL会員有志は、今の JARL 運営について、つぎの点を看過できないと考えています。

- ① 昨年の社員総会以降の理事会はずさんで、数々の建設的な提案が頭から否定されました。

- ② 今年の電波法改正について、JG1KTC高尾義則会長は、自らが総務省に「直接」提出した。総務省宛要望書で実現したとアピールしていますが、その要望書は、大矢理事の案を無断で使用したものです。
- ③ たくさんの社員・会員が、JARL が今後も存続できるのか心配し、「赤字運営を止め、組織としての中長期を見据えた運営をして欲しい」と多角的な観点から分析し、真摯な態度で何度も訴えて来ましたが、聞き入れられず、昨年度も5000万円以上の赤字を垂れ流しています。
- ④ 令和2年実施の通常選挙において、高尾会長が支援した理事・社員の候補者には、倫理観を欠いた選挙活動が行われました。その結果、選挙違反の異議申し立てが少なくとも4件も出されています。会員の個人情報を守られない選挙が行われています。

#### 事実その1 昨年6月の社員総会以降のずさんな理事会運営

昨年6月の社員総会直前の第45回理事会で、実は、日野岳充専務理事は、「ハムフェア 2020 はオリンピックの影響で会場を確保できないので中止する。」と一方的に報告していました。

このことが社員総会で私たち社員に報告されていたら、昨年の高尾会長・日野岳専務理事の解任議案の結論は変わっていたのではないのでしょうか。その後、偶然にも会場が確保でき、ハムフェア 2020 は開催される予定ですが、これは一方的中止に異を唱えた JI1DWB 大矢浩理事の功績です。

昨年6月の社員総会后に、第46回臨時理事会がJG2GFX種村一郎理事により法律に基づき招集されていましたが、高尾会長、日野岳専務理事と、会長の意を酌んだ理事、監事がボイコットしたために、不成立となりました。

組織の要である監事までもが会長の意を酌む組織とは何でしょうか？

その後、昨年9月、11月、今年2月の理事会に、以下の議案が提出されました。

- ①総務省に要望書を継続的に提出する決議案(大矢理事)
- ②外国のアマチュア無線に関する法制度を調査する決議案(同)
- ③JARL 入会・退会者の状況を調査する決議案(同)
- ④JARL が検討している電子 QSL システムの仕様案を公開し意見を募集する決議案(同)
- ⑤C4FM 他のレピータを検討する決議案(同)
- ⑥委員会の活動内容を公開する決議案(同)
- ⑦理事会の運営を適正化する決議案(同)

- ⑧予算案に詳しい理由を付ける決議案(同)
- ⑨地方本部や支部が保有する個人情報の一部の候補者だけに提供することを禁止する決議案(吉沼理事)
- ⑩東京オリンピック・パラリンピックのPR局・記念局のコールサインは長すぎるので再考する決議案(田中理事)
- ⑪コンテスト時のQSLカード交換の自粛を呼びかける決議案(田中理事)
- ⑫総務省に、「免許制度の簡素化」に絞った要望書を提出する決議案(田中理事)

本当の「会員ファースト」であれば、どれも可決されなければならないもので、JA1 NVF吉沼勝美理事、JI1DWB大矢理事、JA2HDE木村時政理事、JG2GFX種村理事、JH3GXF安孫子達理事、JR3QHQ田中透理事、JA4DLF綱島俊昭理事の7名は賛成しましたが、高尾会長、日野岳専務理事は、これらを頭ごなしに否定し、他の理事を巻き込んで否決したのです。

社員の皆さん、これが理事会の実態です。昨年の社員総会前よりも、ますます悪化していませんか？理事がJARL会員/アマチュア無線界のために提出したこれらの議案を、ただ闇雲に否定する高尾会長の姿勢・・・これが、本当に「会員ファースト」なのでしょうか？

## 事実その2 手柄横取りと相次ぐ虚偽答弁

昨年9月18日 JARLは総務省に対し要望書を提出しました。今年実現した電波法の改正(デジタルモードの手續簡素化、体験臨時局の創設、1.9MHz帯と3.5MHz帯のバンド開放)について、JG1KTC 高尾義則氏は「かねてより要望をしていた内容が実現した」と、自分だけの成果のようにアピールしています。ですが、本当は、総務省とJARDほか、関係者の方々の熱意と努力によって実現したもので、残念ですがJARLの功績はありません。

しかも、要望書の内容は、JI1DWB 大矢 浩 推薦理事(総務省OB)が各理事に見本として渡した要望書を、大矢理事への利用承諾受け無いことも問題ですが、理事会への提案や承認も受けないまま無断で使用し、総務省に提出したものなのです。この虚偽と真実をどうか知ってください。

さらには第48回理事会(11月)において、日野岳専務理事は「要望書は原案を作成した大矢理事と相談して提出した」と答弁、大矢理事はそれを否定しています。理事会においても、執行部側は理事に対して虚偽報告をしているのです。

JARLは令和元年までの10年間 総務省に何も要望書も出していません(第47回理事会(9月)で、理事からの質問により判明)。

つまり 長年の夢であろう「免許手続きの簡素化」や「バンド開放」など、何も明確に要望していません。JARLの最高議決機関の場である社員総会においても「粘り強く総務省に要望して参ります」と毎年 言っていました、実際は違っていたのです。

今年の3月から4月、選挙の期間中にパプコメが募集されていた「周波数再編アクションプラン(令和2年度改定版)」に、JARLは何も意見を出していません。高尾会長と日野岳専務理事による執行部が続けば、法制度改革は期待できないことの証拠です。

### 事実その3 赤字運営の継続と予算・実績管理の不徹底

下表のとおり、昨年度は「3747万円の赤字予算に対し、5431万円の赤字決算」となっています。

直近の経営状況(収支)

	予算	決算	差異	決議
平成29年度	▲5471万円	▲8974万円	▲3503万円	反対50、賛成71
平成30年度	▲3936万円	▲8010万円	▲4074万円	反対50、賛成71
令和元年度	▲3747万円	▲5431万円	▲1684万円	今回です
令和2年度	▲5989万円			

過去の社員総会では、一昨年も昨年も、半数近くの社員の方が、「赤字運営はやはりおかしい」と声を上げられました。

みなさんは、このような経営状態を認めることが、本当に良い選択だと思いますでしょうか？

現会長によるJARLの運営は4年にもなります。

- 会員増強キャンペーンを長年展開  
→ 会員数は増えた？会費収入は？ 成果が見えません！！
- 3年以上の継続会員の期間を12ヶ月から13ヶ月に延長することに、2000万円を浪費 → 会員が喜び 継続率向上や新規会員が増える等 効果が不明で費用効果が疑問
- 「なぜ成果が出ない？」の原因追及・対策を講じない → やりっ放し

数年前より改善しているから良いという訳ではありません。高尾会長、日野岳専務理事は、自ら収支を計画したにも関わらず、予実管理ができていないのです。

この間、内部留保(積立金)は約3億円も減りました。高尾会長は「無借金経営は健全経営である」という経営感覚をお持ちのようですが、無借金なのは積立金で赤字を補填しているからであり、それも終わりが見え始め、収支均衡対策を早急にしなければ、財政が破綻し組織は消滅します。

積立金は過去に会員が残してくれた大切な財産です。会員ファーストなどとうたい、あればあるだけ湯水のように浪費して良いものではありません。この大切な財産は、日本のアマチュア無線のために大きな事をするために使うべきではないでしょうか。赤字を垂れ流して積立金を不当に減らしてしまった責任は、高尾会長と日野岳専務理事にあるのではないのでしょうか。

#### 事実その4 通常選挙における多数の異議申し立て(倫理観なき選挙活動)

さきの選挙を受け、JARL 選挙委員会には少なくとも4件の異議申し立てが出されています。

東北地方本部区域で当選した社員であるJR7JAW槻木澤稔氏と、中国地方本部区域の理事候補者であるJE4WWK金子由次氏に対して2件ずつです。このうち3件が、「最新のJARL会員局名録に掲載していない住所に選挙ハガキが届いた」というものです。一般のJARL会員が知り得るのは、「JARL会員局名録」に掲載された情報のみです。それ以外の情報は、JARLが持っている最新の会員個人情報からの流用としか考えられません。

この当選した社員と理事候補者の推薦人には、いずれもJG1KTC 高尾義則氏が名を連ね、JE7JGG 佐藤眸監事の推薦も一部あったようです。異議申し立てではJARLの個人情報保護規定の運用も問われており、本年5月の理事会でJARL 総務も個人情報を流用してはいけないことを認めています。JR7JAW槻木澤稔氏に対する選挙委員会の裁定は最も軽い「勧告」です(金子氏に対する裁定はまだ出ていません)。JARLの選挙は、個人情報も守らず、倫理や不正のとがめもない無法の状態になってしまったのでしょうか。

以上の事実に基づきまして、我々 有志社員は、JARLの存続と会員の利便を維持するため、また ごまかしを食い止めるために、第1号議案「令和元年度決算の件」に反対し、第2号議案「役員選任の件」において以下の3名の理事選任を否決いただきたく、お手紙を送らせて頂いた次第です。

- JG1KTC 高尾 義則 理事候補 (理由:赤字運営、横暴な理事会運営)
- JE1KAB 日野岳 充 理事候補 (理由:赤字運営、横暴な理事会運営)
- JE4WWK 金子 由次 理事候補 (理由:倫理観を欠いた選挙活動)

議決権行使書を提出なさる方は、以上のように賛否を書いた議決権行使書を、JARL事務局に提出してください。また、議決権行使書が操作される可能性もありますので、賛否の内容を、どうか、私たちまでお知らせ下さい。

メールアドレスは jarl201906@gmail.com です。

また、以下のホームページをぜひご覧下さい。さらに詳しい情報があります。

2020年JARL選挙情報 <https://jarl2020.wordpress.com/>

社員皆様の1票は、会員のみなさんから託された、貴重な意思表示の手段です。真にJARL会員の皆さんの視点に立った、慎重なご判断と勇気ある賛同をお願いする次第です。

敬 具